

FD 活動の報告 2021年度

俵 山 雄 司

日本語・日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

今年度は、新たに「令和3年度から令和7年度までのFD活動計画」を策定し、実施した。その概要を示す。

令和3年度から令和7年度までのFD活動計画

「成功例・要改善例の共有による教育改善」

①報告の執筆と共有

・年度ごとに、教員個人が1つの授業を取り上げ、実施概要・成果と課題についての報告を執筆する。報告はFD担当者がとりまとめ、全員と共有する。

②FD研修会

・年度ごとに担当者が研修会を企画し、今後の教育や授業運営についてのディスカッションの機会を設ける。

なお、①「報告の執筆共有」は前年度までのFD活動の内容を踏襲したものである。今回提出された報告のタイトルを、報告対象となったコース別に示す。丸括弧内は報告の執筆者である。

日本語研修コース (EJ)

EJ Courseにおけるgoogleドキュメントを用いた作文の添削について (藤森)

全学向け日本語コース (SJ)

SJ120における手書き提出物の添削 (滝), SJ220におけるオンライン多読活動 (俵山)

NUPACE 向け日本語コース (NP)

初級コースにおけるオンデマンド会話教材の試行

(石崎), 初級後半レベルにおける聴解活動を取り入れた授業活動の試み (宗林)

全学向け日本語コース / NUPACE 向け日本語コース 合同 (中級 - 上級レベル)

漢字クラスを飽きさせないように(西田), 漢字IIクラスのオンライン実施における活動 (香川), SJ310/NP4 (中級前期) 会話授業 (安井), SJ310/NP4 中級文法クラスにおいて主体的に学ばせるための工夫 (佐藤), SJ320/NP5 文法 (栗木), SJ3120作文「総合日本語教育」を目指して (李), 中上級の文法 (SJ330/NP6 文法) のオンラインでの実施報告 (関), SJ410/NP7 作文における日本の新聞紙読者に向けての意見発信 (田中), グループワークとインターアクションから学ぶ「日本語コミュニケーション論」(許), 「学術日本語」におけるアカデミックライティング指導 (加藤)

次に、②のFD研修会であるが、今年度を実施した研修会の概要を以下に記す。

日時：11月26日 (金) 18～19時

場所：オンラインで実施 (Zoom 使用)

話題提供者: 鈴木健一氏 (名古屋大学学生相談センター 教授, センター長)・松本寿弥氏 (名古屋大学学生相談センター講師)

内容: COVID-19の長期化に伴って教育現場では様々な影響が出ていること、現状を緊急事態ととらえていること、各部署で学生の面談や支援に取り組んでいるといった活動について紹介いただいた。

この研修会には、国際言語センターの専任教員及び非常勤講師合わせて約15名が出席し、活発な質疑応答や議論が行われた。

なお、①のFD報告のうち、掲載に適していると判断された数編について、本誌(国際言語センター年報)に「実践紹介」カテゴリーで掲載している。